

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】令和3年1月21日(2021.1.21)

【公表番号】特表2020-502747(P2020-502747A)

【公表日】令和2年1月23日(2020.1.23)

【年通号数】公開・登録公報2020-003

【出願番号】特願2019-531784(P2019-531784)

【国際特許分類】

H 01 R	4/64	(2006.01)
D 03 D	1/00	(2006.01)
D 03 D	15/67	(2021.01)
D 03 D	15/533	(2021.01)
D 04 C	1/02	(2006.01)
D 04 C	1/06	(2006.01)
H 01 R	43/00	(2006.01)
H 02 G	3/30	(2006.01)
H 02 G	3/04	(2006.01)

【F I】

H 01 R	4/64	D
D 03 D	1/00	Z
D 03 D	15/02	A
D 03 D	15/00	1 0 1
D 04 C	1/02	
D 04 C	1/06	Z
H 01 R	4/64	C
H 01 R	43/00	D
H 02 G	3/30	
H 02 G	3/04	

【手続補正書】

【提出日】令和2年12月7日(2020.12.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

壁14は、編組、編み、好ましくは織りを含む任意の好適な機構を介してインターレースされ得る。これに関係なく、モノフィラメントおよび/またはマルチフィラメントを含む、用いられるヤーンの少なくともいくつかまたは全体は、その全体が参照によりここに組み込まれる、2012年10月9日に発行された共通所有の米国特許第8,283,563号に開示されるような、金属コーティングされたヤーン、金属ワイヤ、および伝導性フィラメントとともに提供されるまたは撚られる非伝導性フィラメントを含むハイブリッドヤーンなどの、導電性フィラメントとして提供されてもよい。さらに、ヒートセット可能なヤーンが壁14にインターレースされ得ることが考えられ、たとえば、織られた、編まれたまたは編組された構成で、縦糸ヤーンは一方の端部16から反対側の端部18まで長手方向に延在して、対向縁部20, 22が自動的に互いに重なる関係に付勢されるように、壁14が自己巻付き壁14になるようにヒートセットされることを可能にする。壁14は、ストラップとも呼ばれる平坦なテープまたは条片として構築されることが認識され

るべきである。壁 14 の長さ ( L ) は、両端部 16 , 18 間に延在する縦糸方向によって規定される。壁 14 の幅 ( W ) は、対向縁部 20 , 22 の間に延在する横糸方向によって規定される。したがって、壁 14 は、連続的なインターレースプロセスで作製され得、用途に応じて、壁 14 の長さは、必要に応じて、所定の長さに切断され得る。言うまでもなく、縁部 20 , 22 は、緩んだヤーンまたは切断端部を有しないようにインターレースプロセスで形成され、したがって望ましくないほつれがない。